

市場領域ロードマップ^o

市場領域名：生活習慣改善ヘルスケア、デジタルヘルス

令和6年6月

取りまとめ省庁：経済産業省

【2030年の市場として目指すべき市場領域の姿】

- ・ 高齢化に係る課題最先進国として、成長領域であるヘルスケア分野において新たな需要拡大による投資を促進することで、その対応策を確立し、今後高齢化の後を追ってくる各国への展開も視野に入れて取り組む。ヘルスケア領域への異分野からの参入促進（産業の構造変化の促進）に向けて、その基盤となるデータ・インフラの整備や制度化に注力。
- ・ バイオとデジタルが融合し、診断・治療と予防・共生が連携した未永く社会参加できる社会。
- ・ 健康・未病段階のセルフケア・早期発見、代謝障害に備えた予防、臓器障害における治療と重症化予防が切れ目なくつなげた社会システムを確立し、医療の質の向上と産業の発展をともに達成。

【主な課題・取組】

- ・ 既存の健康・医療関連産業にとどまらず、異業種企業や投資家等の幅広い関係者による健康・医療分野への投資や新たな事業創出が促進されるよう、セクターを超えた連携の強化や産業ビジョンの共有等によるイノベーション・エコシステムの構築を図る。
【現状の取組】
 - Healthcare Innovation Hubによる、国内外のヘルスケアイノベーション創出に取り組むステークホルダーのネットワーキング支援。
- ・ 全ての生活関連産業がヘルスケアの担い手になり得るとの考えの下、異分野参入を促し、個人の健康状態や嗜好に合わせた個別最適なサービスを創出するための基盤として、官民連携によるデータ標準化・情報取り扱いルールの整備やP H Rの活用促進を行う。
【現状の取組】
 - P H Rサービスの利活用促進にむけた環境整備

【市場規模】

2018年時点

公的保険外ヘルスケアサービスの市場規模の推計 25兆円
(※2016年時点)



2030年時点（目標）

公的保険外ヘルスケアサービスの市場規模の推計 39.1兆円

2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2030～
------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------

項目	目指すべき姿・現状の課題
----	--------------

取組

技術開発の加速化

- デジタル等の新しい技術を活用した介入手法、非医療関係者でも利活用可能な評価指標等に関するエビデンスを構築を目指す。
- 予防・健康づくりに資するヘルスケアサービスの事業化には、適切な効果検証を経たサービス開発の不足やマネタイズモデルの未確立等の課題がある。それらの課題を解決したヘルスケアサービスが広く事業化されていくことを目指す。

連携を見据えたデータ収集
 デジタルヘルスの国際協調を見据えたデータ基盤構築に向けたグランドデザインの検討 / 個人に紐づくデータ蓄積・活用できるデータ基盤プラットフォームの構築 / ライフログ、長期モニタリングを踏まえた健康課題解決への絞り込み実施 / データ取得に応じたエビデンス構築による信頼性確保 / クラウドセキュリティや共同保管管理をはじめとするデータ基盤インフラの整備、データサイエンティストの育成

共有に向けたデータ統合・処理
 データの共同取得・互換性確保のためのシステム構築に係る協議（データ移植性、データ交換等）、データベース共用運用と利活用 / 協調して収集・統合する質の高いデータの仕様・規格（データセットの絞り込み・均質性・安全性・信頼性等）

利活用に向けたデータ共有・連携
 産業界が持つ非競争領域データの共有化トライアルと共有メリットの確認 / 事業者間でデータ共有・活用できるシステム構築（産業界が持つ非競争領域データの共有化） / 健常者から病者にいたる各種データの連携制度の最適化・確立 / 環境・気象・災害・購買等とのデータ連携

利活用推進に向けたデータ運用・管理
 大規模データ利活用の推進に向けた流動環境の整備 / サービスが自律的に展開・発展するエコシステム構築 / 自社製品サービス提供データと他社データ連携による新規サービスの開発 / 環境データとバイタルや医療介護などの個人データを連携させたフィードバックの構築 / 健康・医療ビッグデータの共用利活用によるエビデンスの検証および個別化事業の推進 / 個別化サービスを介したリアルデータの集積・レスポンスの要因解析

エビデンスの構築
 非薬物的介入手法が有用な疾患領域におけるエビデンス構築支援【経】

エビデンスの構築
 非薬物的介入手法が有用な疾患領域におけるエビデンス構築支援【経】

予防・健康づくりに寄与するアプリサービス等の開発・エビデンス構築・事業化
 糖尿病及びその他の疾患領域の予防・改善につながるサービスの高度化やその効果についてのエビデンスの構築
 ヘルスケアサービスの事業化に向けたサービス開発を支援【経】

サービス開発支援・伴走支援
 ヘルスケアサービスの事業化に向けたサービス開発を支援【経】

- ・オレンジ・・・産業界主体の取組
- ・緑・・・産学官連携の取組
- ・青・・・官（学）主体の取組

		2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2030～
項目	目指すべき姿・現状の課題	取組												
市場環境の整備に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> 医薬品や医療機器に比して、ヘルスケア分野部の一部の製品・サービスでは、適切な提供体制の整備やエビデンスの構築・検証がされていない。 医学会、産業界が連携したオーソライズの仕組みの構築を目指す。 													
		<p>民間自主基準やガイドラインの策定支援 ヘルスケアサービスガイドライン等のあり方に基づいた業界団体等の自主基準やガイドライン等の策定を支援【経】</p> <p>民間自主基準やガイドラインの策定支援 ヘルスケアサービスガイドライン等のあり方に基づいた業界団体等の自主基準やガイドライン等の策定を支援【経】</p> <p>予防・健康づくりに関する医学会による指針等の策定・普及 業界団体・医学会による信頼性担保の基準を策定【経】 基準に基づいたサービス開発を促進【経】</p> <p>予防・健康づくりに関する医学会による指針等の策定・普及 業界団体・医学会による信頼性担保の基準を策定【経】 基準に基づいたサービス開発を促進【経】</p>												

2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2030～
------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------

項目	目指すべき姿・現状の課題
----	--------------

取組

事業環境の整備等による国内産業基盤の確立

・ヘルスケア分野のスタートアップは、サービス開発や実装の段階において、①エビデンス構築やデータ収集の困難さ、②支援人材や実証フィールドの不足、③独自の規制・認可体系を有する薬事制度に関する専門性が高く、自社のみでは対応が困難。ヘルスケアスタートアップを支援する包括的なコミュニティが必要。ヘルスケア・ライフサイエンス分野のベンチャーエコシステムの構築を目指す。

